

第4回 香美市立図書館及び美術館収蔵庫建設等検討委員会

平成29年1月17日 18:30～

本庁3階会議室

出席委員：中村直人委員長・濱田正彦副委員長・山本恭弘副委員長

岡花瞳委員・野村貴子委員・野村文紀委員・奥野克仁委員・山重壮一委員

町田由岐子委員・大岸真弓委員・岡林良浩委員・田中信一委員

山本祥子委員・依光美代子委員・仙波美由記委員・森本ちづ委員（16名）

事務局：教育長・次長・課長・班長・都築館長・松岡・佐竹館長・黒岩・依光

CM：日建設計 森・服部

教育長あいさつ

委員長

策定にあたっての現状と課題が、基本方針に盛り込まれているはず。その関係性も含めて、前回の意見がうまく集約されているか確認をお願いしたい。なにかご指摘いただけるのであれば自由に発言をお願いします。

委員

収蔵庫は地下が望ましいというのに対し、事務局からの回答が地上の数倍の建設コストがかかるとなっている。どのくらいかかるのか。

CM

我々の業界で単純に3倍といわれる。

土を出すこと、処理もさることながら、土工事にすごい時間とお金がかかる。地下の壁も地上の壁とは全然違うもので作らないといけない、土の圧力がかかってくる、構造的に非常に、ヘビーになってしまう。

委員長

自分が発言した内容で、香美市は分館が二つあり、その機能をどうつないで充実するかということを入れたいといけないということで、その時に e-book とか、それぞれの所で独自に持っている本とか、デジタルなデータで早く渡したりするというようなことを考えないといけないと思ったと思う。旧の山田町じゃない地区に住んでいる方もこの図書館ができることによって、色々なメリットが享受できるシステムをどう入れるかということを考えてもらいたい。今の発言との関連で一部触れているのが、パソコンが10台くらい必要じゃないかと書いてあるが、デジタルとか情報化とかAI化とか、2020年に向けてかなりの分野やAIが、変わっていくと言われている。そういったことにも対応できることを考えながら、図書館機能拡張・強化ができることを考えていただきたいと思ったと思う。それをどう計画書の中に記載するかは別の問題で、後で話できればと思っている。

委員

私の発言した「対面朗読室とは何か」というところで、この発言も確かにしましたが、小さな録音室と一緒に作ってほしいとお願いをした。これは、翻訳サービスというのがあり、個人の方が家庭でデイジー等を使って録音するサービスをしている方が、香美市には非常に多いと聞いている。そういった録音室は小さくて十分らしく、このようなものがあればいいと思い発言をさせていただいた。

委員長

次の項目。前回、市民懇談会を15日に開くと聞いていた。それに関する報告を。

CM

懇談会に関する報告

委員

懇談会に参加していたが、意見の中に町内の中心部に作ってほしい、図書館を作ってほしい、公共交通機関を利用して行きやすい場所に作ってほしい、という意見もあったように記憶している。

事務局

図書館の方が作ったものだが、当日、書いてもらった資料と意見をつき合わせて、書き出してもらった。

委員長

開催日時を書いているが、場所はどこか。

事務局

中央公民館です。

委員長

参加人数50名で、こどもというのは何歳以下か。

事務局

小学生、中学生。

委員長

小中学生がこどもで、高校生以上が一般か。

事務局

高校生はいなくて、あとは大人だった。

委員長

アンケートとか別にとってないのか。居住地区の分類とか分からないか。

事務局

住所を書いていただくよう用紙は作っていたが、それが分かるようなものを今回、準備できていない。

委員長

山田地区の人ばかりの意見をまとめたということではないのか。

事務局

香美市外の方も数人いて、南国市、香南市。

香美市内では、山田地区の方が多くて、あと香北。
やはり多くは山田町内の方だった。

委員長

他の市町村の方は、どのような方が来ていたのか。

事務局

関心があったようで、1回目も来ていた方や、香南市の方も来ていた。常に香美市の図書館を使っている方ということ。香南市、南国市の方も「利用者ということにかまいませんか」と聞かれたので、入っていただいてご意見を伺った。

委員長

両方に書いてある資料を合わせたくらいの意見が出たということか。
他に意見がないようでしたら次の項目に進んでよろしいか、では、次を。

CM

今後の説明

委員

公民館でのワークショップで、中心部とか、駅の周辺がいいという意見がたくさんあって、場所がどこに決まるかということが、今、すごく関心事である。どういう図書館にするかという話をした時に場所が決まらなないと、後のことが言いづらい、どうなるのか、いつになるのかというのが1つと、候補地をそこに決めたよほど説得できる理由、合理的な理由というのが、説明には欠かせないと思う。

委員長

市民のために図書館を作るわけだから、市民の期待がぐっと膨らんで、土地の良さがどうかっていうことだけで、議論を進めるのではなく、全体的な利便性とか、皆さんの期待が集まって、よりそこをうまく使えるようにしようという議論が巻き起こるような形で事を運んでいただくことが重要。十分にご配慮をいただければと思う。市民が自分たちの図書館ができるので、できるだけ参加して運営とか、貢献したいと思えるような広報の仕方をお願いしたい。スケジュール関係のご質問はありますか。

委員長

コンセプトに関する説明を。

CM

コンセプトの説明。

委員

結びというのは確かにつなぐという意味もあるが、結いというのはそこに固まるという、団結とか、強固なイメージ、結いとかそういうイメージ。図書館機能としては、本来の形で具体性は無いにしても、この結いという言葉、非常に逆のイメージで存在、図書館に集結、集約している。香美市は三町含めて結んでいく、つないでいく、文化も学校図書館も大学図書館もそれをつなごうとしている。ネットワークで、結ぶわけじゃない。この図

書館がすべて中心。

CM

言葉なのでいろんな捉われ方というのがある。

委員

コンセプトの大事なのは言葉。言葉をちゃんと理解しないとコンセプトはできない。

CM

我々が考えたのは、こういう結んでいく、この先が外であったり、中であったりで、例えば結びっていう言葉でいうと、完結、終わりという意味も一つある。

ここで言う結びというのは、まさに言われたネットワーク、つなぐ、ポイントになっていくというようなことで、コミュニケーションとか、そういう場所の機能を重視していかれてはどうかということで結びということにした。

委員

言葉としては、非常にいいが、持っている言葉の意味というものをちゃんと理解しないと、人によってそれぞれ使われてきた経緯も歴史もあるわけで、それも踏まえてやらないといけない。単に、そういうのもあるよねということでは、やっぱり私は納得いかない。

委員

コンセプト策定による取捨選択の判断基準を明確化というのは賛成。コンセプトが一番初めにきて、様々なサービスが展開していくのだと思う。結びはちょっと点在化したようなイメージがする。たとえば手を差し出したときに、握ってくれたらこれはつながる。つながるとか結ぶというのはいま、非常にどこでも使われるが、香美市で目指す図書館像というのは持続可能な社会の中で、できる図書館だと思う。図書館ができあがってからがスタートだと思っている。できあがるまでの配慮じゃなく、そこから先、どんな運営をしていくか、住民とのコミュニケーションも必要だと思う。

未来につながる図書館であるということを提案したい。例えば、図書館に行ったら自分の未来に会えるような図書館という、例えだが、日常、私たちは色々なものを選択して生きている。本を取って何かを選んでチョイスして、チョイスして、私たち一人ひとりができている、そういう選べる自由、自由に選べるというようなコンセプトがいいと思う。

教育長

コンセプトの話だが、知の大樹とか考えてきたので、最初から図書館の機能が充実して大事にしないとけない。そこにみんなが集って、そこから未来につながる、とさっきの言葉にあったが、要は香美市でみんなと集ってそこで活動しながら広めていく、発信していく、工科大とかいろんなつながりもあるし、そこから文化が生まれていくようなイメージを持って、香美市としたらもう1つ、コンセプトで「結ぶ」というのは、みんなが一緒になってというのが大事で、そこから発展するというか、言葉が生まれてきてくれたらうれしいと思っている。なかなかすぐには、難しいかもしれないが、決定していくのにもう少しご意見、言葉が欲しい。

委員長

さっきの意見で、創造的な提案は何かあるか。

委員

大事な「つながる」という言葉、支援ともう一つ、届ける、合わせてつなげる、つながるとか。自分としては、CMさんが非常に言葉として、きれいにまとめてくれているが、今後図書館がすべて、結ぶ箇所という形になっていいものか、未来へ向けて発信していく、ここに集約、ここから発信して外へ向いて行くというイメージを持っている。集落の結いの言葉もそういう言葉である。

委員長

県が考えている図書館と、この市の図書館と役割分化。ここに書いてあるような、原則はどういう風に評価できるかとか、捉えられるかということについて、少しご意見を伺いたい。

委員

専門書は確かに必要だが、読む人が多くはないので、市町村がそろえるというのは当然難しい。ごく身近な手に取って楽しむ本を市町村は積極的に買っていただきたい。人口規模を5,000人位きざみとした時、全国の平均よりも高知県の市町村総額で大体、1,900万円くらい少ない。楽しみに行ける、なにか発見がある図書館、そこに行くで見つかる図書館とか、そういうものが入っているといい。専門書は県立図書館の方にまかせて、もっと身近な本を置くというのは、方針としていいと思う。

委員長

財政状況と施設規模から考えて、14万冊くらいの規模が適正で、人口規模から考えて算出されているが、これを現実的なところで8万冊で、開架が5万と閉架が3万と、あと分館が3万という数に関してはどうか。

委員

蔵書数は、どんどん増えていく。面積が実際に少なければ、ぎゅうぎゅう詰めにしてしまうことになるので、本を入れるためにあまり窮屈な図書館では確かによくない。

書庫の形として、集密書庫というものがある。集密書庫というのは圧縮できる書庫で、グルグル回して、電動であるタイプと手動とあるが、手動の場合、ベアリングが入っていて、動滑車の原理から、そんなに力を入れるわけでもなく回るようにできているので、そういうものを入れるとほぼ2倍入る。その集密書庫を入れて、ある程度8万というか10万くらいあってもいい。14万冊という数は、日本図書館協会が公立図書館の任務と目標を作って、それにある数値基準に基づいているが、公立図書館の人数と目標の数値基準はかなり高いレベルで、全国の市町村で、人口に対する貸し出しが、多い図書館から順番に並べて上位10%の平均。だから、一流クラスの図書館の平均で、一流クラスと同じくらいになりたいのであれば、そのレベルになるが、そこまでは難しいんだったら、割り引いてもいいと思う。

委員長

集密にいれてこれくらいしか圧縮できないのか。

委員

今の図書館では、利用がない。一般の利用者は、そもそも集密の存在を知らない。

例えば高知県内だと南国市の図書館は、定期的にローテーションで書庫の本をどんどん出している。通常、書庫に入れている本を、ときどき出してみても「実は書庫にこういう本もあるので図書館に頼んでくれれば出せますよ」とか、やってるところもある。

委員長

ちょっと検討する余地が色々あると思うので、ご意見をいただきたい。

委員

建物の設計と係ってくるのが職員の数で、ワンフロアでできるか、2層でやるのかによって、図書館に配置される人数が変わってくる場合がある。計画書には5人とある。ただ1人が庶務の方なので、司書が3人となるが、司書が4人だとやりやすい。3人では館長も司書並みに出る状態になる。要は、2層に分けた場合、子ども室が1階になるパターンが多い。相手が子どもだから全然人がいないわけにはいかないもので、子ども室は夜間開館しないにしても、管理上問題は出てくる。考えておく必要があるというのと、最近子どもだからと無理に1階じゃなくてもいいという考え方が出てきている。子どもの方が元気なので、むしろ1階部分はお年寄りに配慮して新聞とかを置くパターンもある。そういうことも考慮して、新聞だけなら無理に1階に人が居なくても大丈夫かもしれない。

委員長

参考にしてください。3人体制と4人体制とで、大分、司書の仕事が変わってくるか。

委員

それはもう全然違う。3人と4人では、要はシフトも組みやすい、夜間開館することを前提にすれば、平日でも2交替になるので、いくらお客が少なくても1人だけというのは危険。4人だと2、2でできるので。館長が多分、戦力に入っているからでしょうけど。施設の館長は、そんなに従事するわけにはいかない。多分アルバイトか何か、臨時職員もつけての人数の気もする。

委員長

施設規模から言ってパソコン3台想定は少なすぎないか。例えば小学校で、20人くらいのクラスで本を探させて、勉強させてという時間の時に、3台でどうやって何をするのか。

CM

瀬戸内図書館に10何台パソコンがあるそうで、そのために2階に1人いて、そのほとんどがIT機器を監視するためにいる。実際、使っているか聞いたが、基本、家にパソコンあるからほとんど使われてないということで、ピークの時でも3台くらいしか使われてないらしい。タブレット系の話もさせていただいたが、あることがわかってないからか、あまり使われてない。小学校との連携で1クラス分でやるかという、小学校と連携すること自体が、非常に難しい。サービスを供給できるのが、近隣の図書館や、小学校だけになってしまうので、なかなか使い勝手が難しいという現状だった。

委員長

タブレットを一定程度置いてくれるのであればいいと思う。工科大がある街なので、できるだけ小学校で、パソコンを使った教育をきちっとやってもらいたい。山田小学校を初めとした支援もしているし、瀬戸内市は、2階で8台のコーナーがあると指摘されているが、香美市の場合はもし8台とか10台とか置いて、あまり使われていないのであれば、大人が積極的に子どもに教えて、使いこなせるようにしてほしい。そうじゃないと、たいした市にはならない、大人がもっと勉強して使って、子どもにその使い方を教えるくらいになっていただかないと。

委員

前提として、このパソコンは検索用か。

委員長

自由に使えることも含む。インターネットコーナーだから自由にアクセスして色々な勉強をする。市民のためにどういう図書館作るかのコンセプトの話をしている時に、あまりに我々の想定と違うのではないかという気がする。

委員

あとでデータベースとか入れる気があれば、新聞のデータベースがあるなら、ある程度の台数が必要。データベースは安くない。

委員長

実際、新聞買って置く需要はあると思うが、その保存とか、手間を考えると、職員の方のデジタルなデータでとって、それで見えていただく方が楽ではないか。

委員

絶対楽だ。

委員長

図書館の運営としては司書も大分楽になる。毎日ほめて、取って、捨ててという作業をするとかかなりの作業量になる。

委員

保存スペースがそもそも取れない。

ただもう1個は、学校がNIEというのをかなり進めている関係がある。

委員長

高知新聞が転用できるかどうか結構難しい。商業ベースで、高知新聞は地方紙なので。NIEという観点から、新聞のデータベースがあった方がいいか、ない方がいいかっていうことだったら、あったらいいという気はする。ただ、高い。検討してみるのなら、ある程度、台数は必要か。

小学校との連携の話が出たので、私の意見では、何年間に1回くらいは、香美市の小学校に通っている子は図書館をちゃんと紹介してもらって、こういう風に使うということを教えられるような教育を入れるべきではないか。

委員

している。

委員長

では物部に居ても香北に居てもここに来て、1日使わせることは想定しているのか。

委員

現在も、物部は物部の、大栃小学校は物部の図書館へ行き、香北は香北の分館へ行っている。

委員長

図書館ができれば、教育委員会がお金を出してバスで連れてきてもらいたい。それぐらいのことはやってもらわないと。

委員長

子供には本が好きになるようなことをシステムとして作らないといけない。できる限りその方向性で色々なことを組織していかないといけないのでお金をかけていただきたい。人の手も大人が率先して見本を示すようになっていただきたい。50代の後半になっても新しいAIとかパソコンも勉強しようという気にならないといけないと思う。国の教育が小学校からプログラミングを導入しようという時代に、そういうものが使いこなせる機器がある程度のところ無いていうことであれば、教育のレベルは推して知るべしになるので、提供しなければならぬことは、きちっとお金を分けて提供すべきだ。他に、美術館の件であまり意見が出てないが、大丈夫か。

委員

この計画するにあたって、最優先事項として考えているのは、図書館で提案している面積について、詳細というか、裏づけを説明していただいたらどうかと思う。一応200㎡といわれている。

CM

プラザ八王子の収蔵庫と物部の収蔵庫に保管をされている状況があり、中身も見させていただいたが、収蔵品は増えていく一方なので適切な面積というものは無いという話である。なかなか廃棄ができないので、恐らく200㎡の収蔵庫を作ったとしても、すぐにいっぱいになる状況で、現在の収蔵庫は、非常に狭い中で一生懸命持たれている。市民懇談会で市民の方から意見があったのは、美術館と離れたところに収蔵庫を作っていいのかという話があった。ここに出てないのは、立ち話で後から言われたので。ここでお話をさせていただきたいのは、空間の余裕度、将来的にどうするか検討していることが1つある。先ほどお見せしたような建物だと、閉架書庫を増やしたらいいとか、収蔵庫を増えた分だけ増やそうという話もあるが、増築するためには面積が必要だ。例えば駐車場として使うのであれば駐車場が削られる、囲われた枠の中で増やしていくというのも1つあるが、増やすのは当然、書架とか、閲覧エリアになってくるので、一番図書館として必要なエリアを削っていくことになる。そこで、これは案ですが、例えば収蔵庫は収蔵庫として本来ここに造るが、建物をエキスパンド(広げるという意味)できるような考え方が1つある。しかし、実は簡単な話ではなくて、建物の構造自体も増えるかもしれないことを想定して作っておかないといけない。将来的に増えるかどうか分からないものに対してすごく投資をしなければいけないことになる。合理的でないと思う。収蔵庫を増やすとか、閉架書庫、集密図書、増やしたらどんどん収蔵数は増えるのかもしれないが、逆に言うとお蔵入りの書、本がいっぱい出てくる。適切なエリアを決めて、今回の建築で建てていくべきか、将来対応について適切かということで考えた。図書館と併設して以上、余ってる土地は駐車場として使う。収蔵庫単体の場合は駐車場がいらない。今回、図書館との併設ということで、余地が使えないという条件が1つある。

委員長

永遠に同じところで収蔵するかと言われると、美術館の寿命がきた時に、建て直してという話になれば、本来は美術館の中に収蔵庫がきちっとあるべきである。前回の委員会で随分検討して、拡張できないか話しあった上で、非常に難しいということだった。建物の寿命が50年間位だとすると、その時には当然、収蔵庫も含めて、

考えなおしを次の世代にはしてもらわないといけない。エネルギー対応の話が少し出てきている。省エネ対応とか、これは何か特別な提案があるか。

CM

省エネというのは使うエネルギーを省くことで、もう1つの言葉が創エネ、エネルギーを作るというのがある。エネルギーを作るのに一番ポピュラーなのが、太陽光発電とか、雨水の再利用で、給湯に使うとかあるが、図書館では給湯はほとんど使わないので、給湯器をつけるのは、ナンセンスだ。太陽光発電は、売電価格と一般の供給の電力の価格が逆転しているおかしな状況がある。普通に売っている電気は20円なのに、売るときは40円。その金は誰が払うかという結局買う人が払わないといけない。太陽光は今の技術では、そのエネルギーコスト、一番はじめのイニシャルコストをランニングで、取ることができないのと、この建物自体がそんなにエネルギーを消費しないので、例えば自然光を利用するとか、こういったことをした方がよいのかと考えている。自然光を採用するときに、大きいガラス面を作って外光を取り入れるパターンが多いが、本が焼けるという意見もある。飯能市の図書館は、埼玉県の非常にきれいな図書館で、西川材を使って作られている。大きなガラス面があって、南側から陽がバンバン入ってくるが、床が木で、2階吹き抜け。2階に学習スペースもあって、今、見下ろしているところ、バルコニーが学習スペースになっていて、非常に音が響く。これがL型になっていて、ここで泣いている子供の声が反対側に回って聞こえる。それで『問題ないか』と聞いたら『今まで、クレームは1つも無いし、注意したこともない。』という答えだった。西川という木は、実は少し柔らかい木で、建材としては使いにくい。ハイハイスペースとアームになっているところが西川材を使っているが、あまりきれいな木ではない。他の床は違う普通の市販材が使われていて、この木は構造で足されている木だが、ずっと前から切って2年くらい乾燥させて使っている。木は、うまくいかないと腐っていくので、非常に取扱が難しい素材になる。今回、香美市でも木材の利用を積極的に設計者にお願いしたいが、うまく使っていないと難しい。自然光を十分使って、昼はほとんど電気がない状態がいい。図書館長も、副館長も大満足だったが、1つだけ問題があった。暑かったらしく、空調は後から増設された。それ以外は全然建物としては文句なしというお話だった。省エネ関係についてはできることはやっていく。あとCASBEEという技術的な話だが、評価基準があって、Sというと、ものすごくお金かけてやらないといけないが、Aは、目指せるということで、色んな評価基準の中でやっていこうと思っている。

委員

確かに、高知県だと木を使ってくださいという声も大きいし、県も補助している側だからどうこう言えないが、メンテナンスやなんかがえらい大変で、コストも高いので、あんまりむきになって使うと正直言って大変だ。

オーテピアの図書館も実は、設計者は木を提案したが、準備室とか、整備課の方がそうじゃないので、木もどきみたいな、見た感じが木みたいだけど実は、GRSだったか、木ではなかった。

委員長

コスト高すぎて使えない。

委員

GRC、GRCとかあったりするので、そこはよく考える必要がある。窓も、日本中の図書館で結構大問題で、今、図書館を建てる時は紫外線カットのガラスを当然使っている。本が焼ける、色に変色するのは紫外線なので、それほど貴重資料を置いている訳でなく、普通の一般の本の場合。でも美術館、博物館は絶対、だめ。通常の図書だったら紫外線カットでいいが、赤外線はそれほどカットしてくれるわけじゃないから、かなり暑い。高知は夏が長いので、あまり窓が大きすぎるのは、高知には向かない。飯能とかだったら、関東だから大分気候も違うが、

設計者でも北欧の図書館が好きな人が多い。そうすると、北欧の図書館みたいなものを、作りたがる。確かに明るくて雰囲気はいいが、九州とかで造ったら暑くてしょうがない。気候に合ったものを考えた方が、いいかもと思う。響く響かないの問題も地域差があって、東京近郊あたりだと、住んでいる人も図書館慣れしていると言うか、静かな施設だとあまり思っていない、最近の東京近郊の人は、やかましいのにも慣れてるから、苦情がこないが、高知で音があまり響いたりすると結構苦情があると思う。

CM

北側だと、明るく見えているところが見えるメリットはある。床の話、音の話だが、いくつかあって、飯能市みたいに許容するというのが1つある。もう1つは、いくつか小部屋にするとか、床をタイルカーペットとかにして、音を吸収しやすく、床がタイルカーペットの天井が、岩綿吸音材とあって、少し柔らかい素材で、音を吸収するしつらえにするというのが1つある。事務所ビルでやっている方法。あと武雄図書館はカフェがあって、BGMを流している。音をマスキングする、要はかぶせて、気にしなくする。市長が、どうしても親子連れがきちんと安心して来てほしいと、「ここで子供が泣いたらもう心配しないといけない」という状況にはしたくないという話があった。いくつか方法があるから、今回香美市の方で、考えて基本設計者と一緒につめていければいいと思っている。

委員

今度のオーテピアの図書館でもそうだが、静寂読書室を最初から用意している。静かにといっても、図書館自体がどうしても騒がしくなると思って、どうしても静かに読みたい人には専用の部屋を作る。確かに香美市の図書館は面積がそんなに大きくないから、ちょっとしたセルでいいから用意して、どうしても静かじゃないといやだと言う人は、多数はいないと思うので、こっちでどうぞ。それからあと、お子さんのことを考えると、今、発達障害とか、学習障害とか、いわゆる障害児が多くて、急にパニックになって声をあげたりすることがあって、親がいたたまれなくなると図書館に来られなくなる場合がある。そういった、パニックルーム風にちょっと逃げ込める小さい部屋とかあれば、お互いに気持ちよく使うことはできる。オーテピアの図書館でも設計者側の提案もあって、親子コーナー部分があったが、うまくいかなくて、学校の見学が多いから、ほとんど学校のクラスの見学に占領されるのだろうと思う。携帯も、マナーモードの仕方を知らない人が結構たくさんいて大げんかになる。笠間市の図書館とか、図書館の中に携帯ボックスがある図書館がある。一応オーテピアの図書館にもちょっとだけあるが、数はあまりない。その配慮がちょっとあるだけで大分違うと思う。

CM

プロポーザルの検討期間もそんなに長くはないので、あまりてんこもりにしても。特に色んなヒントを与えると、設計者は、これを作った方がいいのか、作らない方がいいのかということで、すごく悩まざるを得ない。今、意見自体もまとまってない状態であり、基本設計段階で、その辺をきちんと議論して反映させていただいたらいいと思う。

委員長

原則スペースが限られているので、あればいいけどということに関しては、配慮とか、教育でクリアできるようにしたい。時間がきたので、最後に大まかめで基本理念のことももう少し意見、アイデアをいただいてまとめにしていきたいと思う。中身について色々話されたが、それを再編するコンセプト、最終的にどうするか、色々いただいているが、未来につながるとか、学びが根付いている市にしたい思いがあって、一連の流れできている。教育振興基本計画からこども会議、大人も子どもも、もう1回その基本的に学習というのをきちっとして、市がよくなるようにしたいということがあるので、今言ったような概念に、底辺に学習というのがきちんと根付いて

いるということがあって、そのために図書館をお金や労力をかけて作って、作った後も市民がこれを使って、サポートして図書館を育てていくという概念が入るようなものにしていただけるといい。結果として文化が育つということで、美術館もサポートできるようになればいいと思う。

副委員長

美術館は、収蔵庫だけでいえば自立したものでいいわけだが、合築ということで図書館とつながってるわけで、そこら辺をうまくプロポーザルで引き出してもらえることをお願いしたい。

委員長

スケジュールを最終確認して、委員会が今日、17日に書いているが、市民懇談会の後、1回パブリックコメントを求めて、設計者の選定が入る。コメントやその選定が終わるぐらいのところに、委員会が3月10日ぐらいになるのか、前後の所辺りで皆さんの空いてる曜日で、もう1度委員会をという予定になっているが、2ヶ月くらい先なので、日にちを決定するのは難しいかと思うが、火曜日のこの時間にやっているのでも、事務局から皆さんの方に連絡して、都合をお聞きする。このあたりに委員会が開かれる可能性があるかと少し、記憶いただいて、返事をいただきたい。

事務局

2月いっぱいパブリックコメントをとって、その後取りまとめて、検討をお願いすることになるので、これくらいになるかと思う。

委員長

他に意見はないか。

委員

横浜の図書館総合展に行った時にお会いした方で、図書館づくりをされている、太田剛さんという方がいる。その方と少し、お話をする機会があり、図書館と地域を結ぶ協議会というコーディネーターとチーフディレクターをされている方だが、今、高知の梶原の図書館のコーディネートもされているようで、こちらの方にも来る機会があるとおっしゃっていた。あと、徳島県の図書館のコーディネートもされていて、お話を聞かせていただきたい、でもこちらはお金を出すことはできないという話をした。そしたら、梶原に来る時にこちらの方にお話に来ましようかということをおっしゃっていただき、みなさんのご都合とかがよろしければ、その方のお話を一度お伺いすると、何かまた1つでも2つでも良いお話が聞けるのではないかなと思ひ、提案をさせていただく。

委員長

来られる予定とか決まったらお知らせいただくということで、運営を事務局の方にお返しします。よろしくお願ひします。

事務局

色々ご意見をいただいたので、これを基にしてパブリックコメントに出せる形のものを作成し、一旦皆さまにもお回しした上で、最終的にパブリックコメントを出すという形をとっていきたいと思いますので、またよろしくお願ひします。本日はまことにありがとうございました。

教育長

長時間ありがとうございました。貴重なご意見をたくさんいただきましたので、こちらの方ですぐに検討して基本計画として回せる形にしていきたい。コンセプトの言葉だが、CMと一緒に見直さなければと思うが、今は急な話で言葉があれば、方向性、今、お話をした通りなので、積極的にお返しいただけるとありがたい。

3月の初めぐらいのところで、検討の会を開いて、ご意見をいただきながら、基本設計をしていく段階で、どんどんご意見いただきながら、いいものにしていきたいと思っている。どうぞよろしく申し上げます。

閉会 (20 : 41)